

中瀬

令和元年6月27日 発行

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 Tel 3399-2196

なぜ「障害をもつ」でなく「障害がある」なのか

校長 香西雅斗

真夏の様な日差しが一転して、梅雨寒になるなど気候の変化が激しい日が続いているなか、科学と自然の散歩みちを歩くと、クチナシの花が強い香りを放っています。



中瀬中では6月17日（月）の1時間目に全校生徒が体育館に集まり、SO（スペシャルオリンピックス～オリンピックに準じた色々なスポーツと競技を通じて、知的障害のある人たちが勇気をふるい、家族、地域の人々と感動や友情をわかつあうことを目指した世界的な活動）のバレーボール選手、渡邊拓巳さんと家族の方、コーチの方のお話を伺いながら「障害者理解」をテーマに全校道徳を行いました。

（中瀬中では毎年1年生が秋に、SOのアスリートとフロアホッケーを通して交流し、スタッフの方からSOについて学んでいます。）

最初のワーク「障害・障害者を別な言葉で言い換えたたら？」では、今回が初めてSOを知る1年生から「かわいそうな人」「不自由な人」「遅れている人」「普通じゃない人」「変わっている人」という言葉も上がっていました。

しかし、グループになった上級生の「障害って誰にでもある苦手なことと同じではないか」「障害は健常者が作ってしまう壁」「障害者を苦しくしているのは社会」という意見や、「障害があっても新しい事に挑戦して変わっていく」渡邊さんの姿に、一人一人考えを深めていました。



走り幅跳びのマルクス・レーム選手（ドイツ）は義足で、昨年の前橋大会で8m47cmの記録を出しました。彼が6m台を出した時は周囲から「すごい」、7m台では「素晴らしい」、でも世界最高記録（8m95cm）に迫る8m台を出した時は「ずるい」「義足は有利では」という声が上がりいました。その背景には「障害者は健常者より劣っているはず」という暗黙の思いがあるのかもしれません。

でも“ブラックホールの蒸発”を唱えた車椅子の物理学者のホーキング博士が高度な知性の持ち主であったことは誰もが認めるところです。博士は筋萎縮症の進行により声を失いコミュニケーションが困難になりましたが、パソコンを使い合成音声で講演活動を続けました。

障害はその人がもっているものではなく、ましてや病気ではありません。人が社会で活動し貢献しようとする時、その人と社会の間にあります。足が不自由な人にとっては段差が、目が不自由な人にとっては黄色いブロックに無頓着な人の行為が障害となっているのです。

苦手・不得意な事に挑戦する人を称え、お互いに励まし支え合い、必要な道具を開発し、力を合わせより良い世界を作っていく、そんな未来に向け子供たちと共に進んで行きましょう。

渡邊拓巳さんのお話を聴いて「気付いたこと」「学んだこと」

今回の「命の教育」全校道徳の授業の目標は、

- ① 障害とは何か、自分で考えが深まっている
←障害がある/ないで、分けて考える必要はないんだと気付いてほしい
- ② これからの自分の行動や考え方にはどう活かしていくか、自分の考えをもてる
←障害があっても挑戦し続けている話を聴いて、奮起してほしい

でした。生徒のワークシートを紹介します。

<p>障害があるかないかに関係なく、この地球で生きていく人としては同じだし、一人一人が夢をもって努力していることに気付いた。その人にとっては、「苦手なことや大きな壁はあるけれど、それを乗り越えているから、私もあきらめずに自分の夢に向かっていきたい。」</p> <p>— A 内藤 早希</p>	<p>渡邊さんは僕らと同じ、「苦手なことがある普通の一六歳」と分かった。SOによつてアスリートの人達に、自信や精神的な豊かさが図れることは素晴らしいと思った。</p> <p>障害という言葉が「障害になつてはいけない」と思った。</p> <p>— C 小森 悠太</p>	<p>周りと少し違うところもあるけれど、考へている事、やっている事は、同じといふことが分かった。苦手な部分も前向きに受け止めていた。</p> <p>どんな人にも頑張っていることはあるので、「一生懸命に取り組む」とは良いことだ。自分にできるのことを考へていきたい。</p> <p>— B 清水 りえら</p>	<p>障害があるても、それで生活しづらくなるのは間違っている。障害者を苦ししくしているのは社会だから、「障害者」として受け止めるのではなく、僕たちと同じ人間として受け止めるべきだと思う。</p> <p>— D 大村 友人</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

せいかしけん 体育大会 ~青夏思懸~

真夏を思わせる日差しの元、体育大会が5月25日（土）に行われました。スローガン「青夏思懸」は生徒たちの造語で、その思いは「体育大会は夏の始まり。その大会に思いを懸けて取り組む青春を表している」です。

参観してくださった来賓の方から「学年を越えた団結が感じられた素晴らしい大会でした」とお褒めの言葉をいただきました。短い練習期間にも関わらず、各色の3年生の「最後の体育大会を全力で素晴らしいものにしたい」という強い思いが下級生に伝わり、当日1・2年生が3年生の思いに応え、演技も競技も、そして応援も、一生懸命に取り組んでいました。まず3年生の作文を紹介します。



＜入場行進＞

<p>三 A 青団 実行委員 林 勇輝</p> <p>僕は初めて実行委員をやつた。始めはやらされてる感があり、なかなかやる気になれなかつた。初めての朝練の日になつた。みんなに林、仕切れよ」と言われた。僕は今まで、いつも話を聞く側で、みんなをまとめたことがなかつた。でも声だけは大きいので、とりあえず指示を出したら、意外と上手くいった。練習は休憩が多くつたが、皆それを納得してくれて、雰囲気良く練習を進められた。青団の団長として、応援の中心となつた。応援は覚えることが多く、一・二年生に伝えられるか不安だつた。けれど、朝学活で3Aの皆さんに伝えたら、みんな聞いてくれて、完璧にすることができた。青団全員でやる時も、3Aの皆さんが声を出してくれて、青団全員に伝えることができた。</p> <p>本番では応援が盛り上がり、学年でも色別でも優勝することができた。</p> <p>今回僕は、みんなをまとめる側に立ち、応援して皆で優勝する目標を目指し協力し合う楽しさを知ることができた。：</p>	<p>三 B 赤団 実行委員 小山 愛紗</p> <p>：最初から上手くいく組はあるかも知れないが、B組はすごく沢山問題があつた。話合いの時は意見を言わないのにもやる直前に変えてほしいと言われたり、練習したいものが人により違つたり、どこから手を付ければいいのか分からぬ時もあつた。しかしそれを一緒にまとめてくれる子がいたから、私も落ち着けた。：</p> <p>B組には問題点もあつて大変だった。だから今達成感がある。結果を残せなくて申し訳ない気持ちはいっぱいだが、やって良かったと思う。クラスの皆、有木、先生、本当にありがとうございました。そして他のクラスの実行委員、お疲れさまでした！</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

三〇 黄団 実行委員 高田 智彰

：応援練習の日、後輩をどうリードしていくのか分からず、ずっと悩んでいた。そここの声は出せたが、出していない人も多かった。本番がとても心配だった。：

大会当日、最初に他の団が田陣を組んでいる中、黄団はそれもできなかつた。そんな中、集団応援が始まった。練習の時より声が出ていた。「一年生の実行委員がす」「いい声で呼びかけてくれていた。これで黄団の空気が良くなつたと思う。私は、自分一人で何とかしようとしていたことに気付かされた。結果、黄団は二位、3Cは準優勝できた。応援の力だとう。三年間で一番大変な体育大会だったが、一番充実してい

た大会だった。



<3年 選抜リレー>

<3年 大ムカデ>

次は2年生の作文です。

二つ目は選抜リレー。D組では選抜を捨てて全員リレーにかけようかという弱腰の時期もあつた。でも当日全力で走っている姿を見て、本当に感動した。六人に感謝でいっぱいだ。

三つめは、クラスで一番熱かつた大ムカデだ。当日は今まで一番速いタイムで転ばずに「」ルできた。本当に嬉しかつた。協力してくれた皆さん感謝。ありがとうございます。

We are～」最後の最後に皆で声を出した。皆とても笑顔で大きな声で叫んでいた…

三年生が凄かつた。青団は団長を中心に先輩達が声を出していた。それによって一年生が声を出した。

団長が考えた歌詞で青団がまとまって美しい調和」を生むことができた。

：去年は自分の出る種目を頑張つて、それ以外はふわふわと過ごしていた。でも今年は、応援も団体種目も頑張つた。だから学んだ事が二つある。

一つ目は「誰かが応援してくれている」ということだ。自分が出る50m走は自信がなく不安だった。でも周りの人々が応援してくれたおかげで、不安がなくなつたからです。結果は三位でしたが、応援つてすごい力だと、「ゴールした後つた。だから、応援も種目だと思つて、皆を全力で応援した。来年も全力で応援したいと思つた。

二つ目は「協力の大切さ」です…

二B 佐藤 真凜



<3人4脚走>



<1500m走～総立ちの応援席>

：1500mの本番前、実は緊張していて、一位になると決めていたけど、どこか心の中では負けてしまふかなという思いがよぎっていました。

でもスタートしてから走つていてる最中、同じ色の人達の応援で、物凄く力が湧いてきました。そして結果は一位でした。

僕は「人が応援してくれると、とても嬉しいです。力がみなぎつてくる。」など、そして「応援の力がどれほど人に影響を与えるか」が分かりました。：

二D 齋藤 瞬



<チームジャンプ>



<今年も大活躍 水まき係のビオトープ委員>

この他 「3年生はかっこ良かった。来年私たちは競技も応援ももっと団結して、後輩たちにかっこよかったですと思われる姿で最後の体育大会を迎える。(2B 平井 瑠々花)」など3年生からのバトンを受け継ぐ決意を表した2年生もたくさんいました。最後は1年生です。(紙面の関係で1名だけ紹介します)



<1年 妙正寺川下り>

ラジオ体操が終わり、最初の競技が始まった。私は暑さのせいであまりやる気がなかった。自分の出た50m走も、足が痛かつた事もあり5位だったが、その時はあまり悔しくもなかつた。でも後半になると、私は思いつきりやる気が出た。

小学校の時と、人のやる気が違う。負けた時は、思いつきり悲しんだり悔しがつたり、それでも次こそはとめげずに頑張る。勝った時は思いつきり喜んで、次に勝つ力にかけて頑張っている。そんな先輩が、とても、すごくかっこ良く見えた。それが私のやる気の理由だ。

その後は真剣に取り組んだ。走る時は全力で、応援する時も全力で、私は足の痛みも忘れるほど集中した。

私はその時、優勝よりも団結が大事に思えた。例え優勝がかなわなくても、全力で力を合わせてやり切った体育大会なら、後悔はないと思った。―― A 村岡あやめ

中瀬言葉の検定

6月15日(土)、学校本部「結」の学習支援部により、中瀬中学校の伝統の「中瀬検定」を実施しました。協力してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。

<新たに40全てを暗誦し上級編に進んだメンバー>
岡田 啓斗(2B) 清水 りえら(2B) 八塚 萌衣(3C)
野瀬 遥加(3D) 柏崎はるな(3D) 川本 愛実(3A)

今回の検定で2級(30以上暗唱)は2年生19人、3年生24人となり、2年生5人と3年生15人が上級編に進んでいます。



現在最高は、高野夏帆さん(3B)で後7つで上級編完了、続くのが椿右京君(3B)、椿左京君(3A)で二人とも初級編と合わせて70以上の暗唱に成功しています。2年生の最高は、福元伸吾君(2A)続いて丸尾幸裕君(2D)、岡田啓斗君(2B)で3人とも初級編と合わせて50以上の暗唱に成功しました。

今回初めての挑戦の1年生は、原 雪乃さん(1B) 高橋真希さん(1C)が最高で共に22個、続いて坂上陽香さん(1D)の21個です。 次回の一斎検定は10月12日(土)です。

ヤゴ救出作戦

同じ15日(土)の午後は、学校支援本部「結」の中瀬ビオトープ倶楽部による、ヤゴ救出作戦が予定されていました。しかし雨脚が強まり、一般参加者のプログラムは中止、卒業生を含む大人のスタッフと中学生ボランティアだけで、中瀬中のプールからアカネ系ヤゴ1265匹を救出し、訪れた近隣の小学生や園児たちに配りました。1年生の教室にもヤゴの水槽があり、朝になると羽化したアカネトンボが教室を飛び回っていました。



<中学生ボランティアの紹介>

桜井 斐奈乃(1D)、國分 信太朗(1E)、堂前 咲來(1C)、坂上 陽香(1D)、高田 吏葵(1E)
安原 菜々美(2C)、塩野 真雪(2D)、椎名 楓(2A)、小森 悠太(2C)、原 央輝(2B)、坂本 恵(2C)、
佐藤 真凜(2B)、古田 礼奈(2B)、中山 凪(2C)
内田 愛万音(3B)、内田 涼花(3C)、板倉 凜(3A)、青野 日向子(3B)、高野 夏帆(3B)、恩田 恵未(3B)、
鈴木 幹矢(3B)